

小学校の先生方へ

博物館利用のご案内

社会科や理科の学習で、児童の理解を深める学習の一手段として
上手に博物館を活用してみませんか？



栃木県立博物館

Tochigi Prefectural Museum



1	博物館“見学”から“学習”へ	2
2	学年・教科と博物館資料との関連	2
	【資料 1】教科に関する館内展示・資料	3
3	博物館の体験活動や貸出資料を活用した授業	5
	○ステップ 1 体験活動プログラム	6
	○ステップ 3 博物館資料を活用した授業	7
	○ステップ 5 博物館資料の貸出し	8
4	博物館利用申し込みの手順	13
	【資料】	14
	・ 栃木県立博物館 HP のご案内	
	・ 館内のご案内	
5	利用申し込みに関するご注意	15



1 博物館“見学”から“学習”へ

先生方が授業を考えると「こんな資料を見せたい」「こんな話を聞かせたい」「こんな体験活動をさせたい」など、子どもたちの理解を深める手立てを考えるのではないのでしょうか。導入、課題追究、まとめなど、それぞれの学習にあった教材・教具を用意することはとても大切です。

博物館の資料も教材・教具の一つです。デジタル教材でも授業は可能ですが、博物館の資料には、五感を使って『直接体験』できるという『実物』のよさがあります。博物館としても、せっかく時間をかけて来館する以上、先生方の授業プランに沿った有意義な見学にしていきたいと考えています。

教科・領域の学習内容と博物館資料との関連性を考え、どんなねらいで博物館資料を利用するかで学習過程の中での活用法が変わってきます。

＝学習過程における博物館資料活用例＝

① 資料活用Ⅰ（導入段階での活用）

博物館資料活用→学習課題→課題追究→まとめ



博物館資料（展示資料・貸出資料）の**見学**や**体験学習**を通して、児童の興味関心を喚起し、学習課題を設定する。

② 資料活用Ⅱ（追究活動での活用）

学習課題→博物館資料を活用した課題追究→まとめ



授業で設定した学習課題について、博物館の**展示資料**や**貸出資料**を活用して調べ学習を進める。

③ 資料活用Ⅲ（まとめ・発展段階での活用）

学習課題→課題追求→博物館資料を活用したまとめ



博物館資料（展示資料・貸出資料）の**見学**や**体験学習**を通して、課題追求してきた学習内容について児童の理解を深めたり、更なる興味を引き出して学習の広がりを持たせたりする。

2 学年・教科と博物館展示資料との関連

小学校学習指導要領には、社会科や理科の各学年の取り扱い内容が、下の表のように示されています。

＝小学生の社会科・理科のおもな学習内容＝

社 会		理 科	
3 年 4 年	身近な地域や市町のおもな公共施設、生産や販売に関する仕事、健康な生活や良好な生活環境を守る仕事（飲料水、廃棄物の処理）、 <u>人々の生活の変化</u> （古くから残る道具と使っていたころの暮らしの様子）、 <u>地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事</u> 、 <u>先人の働き</u> 、県全体の地形や主な産業の概要、県内の特色ある地域の人々の生活	3 年	植物の一生、気象（日なたや日かげの温度差等）、 <u>昆虫</u> 、電気、磁石
		4 年	気象（気温等）、季節ごとの動植物の様子、電気、天体（星・星座・月）、物の性質（水や空気など）、動物の体のつくり
5 年	我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連、我が国の産業（農業・水産業・工業）、情報産業や情報化した社会の様子	5 年	植物の発芽・成長、動物の誕生（魚・人）気象（台風・天気）ふりこ、流れる水の働き、電流、物の溶け方
6 年	<u>我が国の歴史</u> 、我が国の政治の働き、我が国とつながりが深い国の人々の生活の様子、我が国の国際交流や国際協力の様子	6 年	物の燃え方、動物の体、植物の体、生きものと環境、太陽と月、 <u>大地のつくりと変化</u> 、てこ、水溶液、発電・蓄電

博物館の展示資料の中で、特に——の単元において博物館の展示資料が効果的に活用できるのではないのでしょうか。そこで博物館来館時、どのような解説や体験ができるのか「教科に関する館内展示・資料」（資料1）を一覧表にまとめました。

お問い合わせの際には、子どもたちの学習に生かせるよう、解説や体験の具体的な内容をご相談ください。

【資料1】教科に関する館内展示・資料

◎教科単元に関連する館内展示・体験学習プログラム・貸出資料をまとめました。あくまで参考ですので、詳しくは展示案内や貸出リストなど、館HPの各コーナーをご覧ください。

学年	教科	関連単元名および学習指導要領の内容	関 連 す る 館 内 展 示	体験学習プログラム
3 年	理科	～単元名～ 「チョウをそだてよう」 「いろいろなこん虫のかんさつ」 (啓林館) ～内容（「学習指導要領」より）～ 身近な昆虫や植物を探したり育てたりして、成長の過程や体のつくりを調べ、それらの成長のきまりや体のつくりについての考えをもつことができるようにする。 ○昆虫の育ち方には一定の順序があり、成虫の体は頭・胸及び腹からできていること。	～スロープ展示～ 昆虫の展示を中心に ☆来館時の主な活動 解説をさく 昆虫は、環境に適応して生息しているため、日光という一つの地域でも標高や植生の違いによってすんでいる昆虫に違いがあることが分かる。 ～展示室2～ 動物コーナー：節足動物（昆虫中心）の展示 ☆来館時の主な活動 解説をさく 展示されているパネルや標本を使って昆虫を見比べ体の仕組みや特徴を知る。またクモなど他の節足動物と昆虫類の体の仕組みの違いを確認するなど、昆虫に対する理解を実物資料で深めることができる。 体験をする ※「雑木林の生きもの」や「水辺の生きもの」コーナーに展示されている昆虫類も活用すると、さらに詳しい解説が可能です。	特別体験活動※ 「挑戦！」 まゆ玉こん虫づくり」 展示室2動物コーナーやスロープで昆虫に関する展示解説を聞いてから、昆虫の体のつくりに気をつけながらまゆ玉で人形を作ります。昆虫の体の仕組みについて理解を深めるための活動です。 ※ 「特別体験」は、教材の数に限りがあるため、学校の規模や児童の人数によっては対応できないことがあります。必ず事前に御相談下さい。
3・4 年	社会	～単元名～ 「くらしの中に伝わる願い」（日本文教出版） 「かわってきた人々のくらし」（東京書籍） ※ 単元名は各市町の副読本でもご確認ください。 例) ◎わたしたちのくらしのむかしさがしをしよう（宇都宮市副読本） ◎くらしの中につたわる願い(鹿沼市副読本) ◎むかしのくらし、いまのくらし (日光市副読本) …など ～内容（「学習指導要領」より）～ 地域の人々の生活について、次のことを調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。 ○古くから残る道具・それらを使っていた頃の暮らしの様子 ○地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事	～テーマ展示室【季節限定】～ テーマ展 おじいさんやおばあさんが子どものころのくらし ☆来館時の主な活動 解説をさく 昔の道具が使われていた頃のくらしについて知る。 体験をする 昔の道具を体験し、使い方を知る。昔の道具への興味を高める。	体験活動 「昔をしらべる」 おじいさんやおばあさんが子どものころに使われていた道具を体験し、昔の人々の苦労や工夫をイメージさせます。 具体的な体験として… ～粉をひいてみよう～ ～火起こしをしてみよう～ ～重さ比べをしてみよう～ ～運んでみよう～ ～着てみよう～ 体験活動「昔をしらべる」 ～昔の音を聴いてみよう～ 昔の生活の様子的一端を体験するものとして、県内で製造された蓄音機の音を実際に聞きます。

学年	教科	関連単元名および学習指導要領の内容	関 連 す る 館 内 展 示	体験学習プログラム
3・4 年	社会	～単元名～ 「地いきは、どのように 発てんしてきたの」（日本文教出版） 「きょうどを開く」（東京書籍） ※ 単元名は各市町の副読本でもご確認ください。 例) ◎地域の発展につくした先人たち (宇都宮市副読本) ◎じまんできる先人をさがそう (鹿沼市副読本) ◎郷土の発てんにつくした人たち (日光市副読本) …など ～内容（「学習指導要領」より）～ 地域の人々の生活について、次のことを調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。 ○地域の発展に尽くした先人の具体的事例	各地域の具体的事例全てに対応できるわけではありませんが、この単元に関連する、展示室1の資料をご紹介します。 ～展示室1～ 江戸時代の下野コーナー：庶民の生活と農村の変化 ○栃木県内で荒廃した農村の復興に尽力した二宮尊徳と報徳仕法に関連する展示資料 近代日本と栃木県コーナー：近代産業の光と影 ○那須野が原開拓に関する展示資料 ☆来館時の主な活動 解説をさく 自分の地域以外の地域にも、水の確保に尽力した先人達がいたことを知る。また、新たに土地を開墾するためには水が重要であること、その確保に先人が苦心したこと、そのための工事は一大事業であったことなどを知り、時代や地域は違っても、人々の願いや思いは同じであったことを想像させること。 体験をする	体験活動 「昔をしらべる」 ～運んでみよう～ 桶に水を入れて運んだり、水桶と天秤棒を使って運んだりしてその大変さを知り、水の確保に尽力した人々の願いや思いを考えるきっかけとすることができる体験活動です。
3・4 年	社会	～単元名～ 「わたしたちの県のようにす」（日本文教出版） 「わたしたちの県」（東京書籍） ※ 単元名は各市町の副読本でもご確認ください。 ～内容（「学習指導要領」より）～ 県の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県の特徴を考えるようにする。 ○県内の特色ある地域の人々の生活	※ 各地域の副読本の取り扱い全てに対応できるわけではありませんが、この単元に関連する博物館展示として、日光の自然に関するスロープ展示があります。 日光を教材として取り扱う場合の参考にしてください。 ～スロープ展示～ ○日光の自然に関する展示資料 ～展示室1～ 江戸時代の下野コーナー：近世日光山の成立と街道の整備 ○日光東照宮に関する展示資料 ☆来館時の主な活動 解説をさく 高低差による動植物の分布の違いや貴重な動植物の生息など、日光神橋付近から白根山頂上までの日光の自然を展示物から疑似体験し、日光の自然に対する理解を深める。また、東照宮の歴史等を知ることにより、世界遺産に登録され、世界の人たちからも注目される日光の文化財に対する理解を深めることができる。	

◎解説や体験プログラム、貸出資料のご希望や申し込み、ご質問等につきましては、博物館までお電話でお問い合わせください。

☆博物館教育広報課職員（学習支援担当）による授業コーディネート☆

博物館の展示資料は、**3・6年生の理科・社会の学習**におすすめです。その他の学年でご利用する際は、見学ルートや解説についてご相談ください。来館目的にあうよう博物館職員がアドバイスをします。

さらに…

「博物館見学を授業にどう生かせばいいの」「博物館資料を借りてどう活用すればいいの」など、博物館資料を活用した授業をつくるために先生方が感じている疑問や不安に博物館職員がお答えします。また、ご要望があれば職員研修や出前授業に学習支援担当職員を派遣し、授業づくりをサポートします。

気軽に博物館までお問い合わせください。



※ 社会科と理科の学習以外に、生態系・絶滅危惧種など『環境』に関するものや生態分布の状況・固有種など『栃木の自然』に関するものなど、『総合的な学習』でもご利用いただけます。

3 博物館の体験活動や貸出資料を活用した授業

栃木県立博物館の学校向け授業支援は見学時の展示解説ではありません。現在、博物館で対応している事例として次のようなものが挙げられます。博物館職員の関わり具合をもとにして、ステップ1からステップ5に分けてあります。ステップ分けはしてありますが、どのステップからでも利用可能です。先生方はどのステップから始めますか？

【図1】博物館の学校支援

		学校支援の内容	実施場所		博物館職員 の関わり度	館担当
			館内	学校		
児童・生徒の学習	ステップ1	体験活動プログラム HP等で案内しているプログラムを使って体験活動を行います。	○		博物館職員 教師	・学習支援 ・解説員
	ステップ2	体験活動プログラムを取り入れた授業（出前授業①） 体験学習プログラムを取り入れて教科の学習を行います。	○	○		・学習支援 ・解説員
	ステップ3	貸出資料を活用した授業（出前授業②） 博物館資料を使って教科の授業を行います。（体験学習を取り入れることも可能です。）		○		・学習支援 ・解説員
	ステップ4	博物館の人材を活用した授業（出前授業③） 授業の中で、特定の資料・題材について解説するために学芸員を派遣します。	○	○		・学習支援 ・学芸員
	ステップ5	博物館資料の貸出しと指導案等の情報提供 資料をお貸しします。先生が自分のプランで授業を行います。希望があれば実践例の指導案等をご提供します。		○		
教員研修	その1	教職10年目研修時の社会体験活動受入れ	○			
	その2	小・中・高教研等への博物館スタッフ派遣	○	○		
	その3	校内研修への博物館スタッフ派遣	○	○		

児童・生徒の学習に関わる支援内容の中から、これまでの実践例を中心にいくつかご紹介します。

ステップ1 体験活動プログラム

来館した学校団体や教育機関を対象に、博物館資料を活用した体験型の活動をプログラムとして提供しています。見たり聞いたりするだけでなく、実際に資料に触れたり疑似体験したりするため、博物館見学を行う際に大きな効果が期待できます。

【実施プログラム】

～体験プログラム～

- ① 貴族のくらし【十二単と狩衣の着付け体験】※
- ② 武士と鎧【鎧着付け体験】
- ③ 昔をしらべる【石臼体験】【水桶による重さ体験】【蓄音器のレコード再生】など
- ④ 化石ひろい【微化石拾い】
- ⑤ 火山灰と鉱物【鹿沼軽石に含まれる鉱物観察】

～特別体験プログラム～

- ① 勾玉づくりに挑戦！
- ② 挑戦！まゆ玉こん虫づくり
- ③ 化石発掘

【実施申込み上の注意】

- (1) 各体験プログラムは原則無料。(予約状況や催し物との関連で実施できない場合あり。)。
・実施人数：40名程度、所要時間：20～30分程度。(※「貴族のくらし」は40分～60分)
- (2) 特別体験各プログラムは、展示解説とセットで実施。(体験のみの申込みは不可)
・特別体験プログラム 実施人数：最大30名程度、
所要時間：①②が2～2.5時間、③が90分程度(※展示解説含む)
- (3) 体験活動プログラムの内容や詳細は、博物館HPを参照するか博物館までお問合せください。

【体験活動プログラムのようす】

☆貴族のくらし

(十二単着付け体験)



☆武士と鎧

(大鎧の着付け体験)



☆昔をしらべる

(石臼挽き体験)



☆勾玉づくりに挑戦！



☆化石発掘



ステップ3 博物館資料を活用した授業

博物館では、ステップ1の体験学習プログラムを授業形式にして学校で実施することも可能ですが、その他の貸出資料も組み合わせ、教科書の学習内容に沿った授業も実施しています。特に、初めて貸出資料を利用される先生や社会・理科が専門外の先生からの相談に応じ、博物館スタッフが外部講師として授業を実施する出前授業も実施しています。館職員が学校と連携して実施した授業実践例をいくつかご紹介します。

①体験活動プログラム「貴族の暮らし」を取り入れた授業 例（6年生 社会科）

～学習の流れ～

【活動1】これまでの学習をふりかえる。

- ・聖徳太子・中大兄皇子・中臣鎌足らの活躍により、天皇中心の世の中が成立したこと。
 - ・聖武天皇が行基の協力により大仏を造営したこと。
 - ・鑑真のように中国の進んだ文化を日本にもたらした人たちがいたこと。
- ※大陸（中国）文化の影響を確認し、日本風の文化につなげていく。

＝本時のねらい＝

- 大陸文化とは違う新たな文化が発生した点に気づかせる。
- 貴族の生活の一部にふれることで、平安時代の文化への興味を高め、今後の調べ



【活動2】男性貴族の服装について解説をきく。

- ・聖武天皇以降の世の中の様子を知る手掛かりとして、当時の貴族の衣服を紹介する。
- ・飾られた束帯や束帯姿の写真と平安以前の貴族の服装の写真と比較させる。
- ・狩衣を着た代表児童に登場してもらい、着付け体験への興味を高める。



【活動3】十二単の着付け体験を行う。

- ☆ 代表者への着付け。
 - ・十二単（代表児：事前に選び出しておく）
 - ☆ 十二単の解説を聞く。
 - ・貴族の暮らしについて
 - ・竹取物語のかぐや姫
 - ・ひなまつのひな人形
- かな文字・文学
年中行事への興味(高)



【活動5】まどめの話

- ☆ 奈良時代までの女性貴族の衣装を紹介、比較させ、服装の変化に気付かせる。
 - ・十二単の方が今の着物に近い…など
- ※服装の変化から日本風の文化が生まれたことにつなげる伏線とする一方、着付けの解説時に使用した資料を再度紹介することにより、服装以外の変化にも着目させ、文学や年中行事など平安文化について調べる際の視点をつかませるようにする。

【活動4】十二単・狩衣を羽織る。

- ☆ 着心地、動きやすさなど、体験を通して貴族の暮らしのイメージをつかませる。
 - ・男女を問わず衣服を羽織るように促す。
 - ・靴、袴、冠など、附属品にも触れさせる。
- ※体験中、貴族の暮らしについて児童からの質疑にも応じるようにする。次時以降の調べ学習に深くかかわる部分については、児童自らが調べるように促し、簡単な解説にとどめる。

実施時期：6月上旬～中旬

②体験活動プログラム「昔をしらべる」とその他の資料を活用した授業 例（3年生 社会科）

～学習の流れ～

【活動1】デジタル機器の音と蓄音機の音を聴き比べ、昔の道具に対する関心を高める。

- ・デジタル機器（CD等）を音源とした曲を聴く。
 - ・蓄音機を音源とした曲を聴く。
 - ・両者の音の違いを感じ取らせる。
 - ・蓄音機用のSP盤とCDディスクの大きさや重さの違いを体感する。
- ※蓄音機を紹介し、電気の普及が十分でない時代への意識付けを図る。



＝本時のねらい＝

- 昔の道具に秘められた先人の知恵に気付かせる。（まどめ①）
- 効率性や利便性などを求める人々の願いや思いの中、道具の改良が進み現在の使われている道具ができたことを理解させる。（まどめ②）
- 道具の改良が進んだ結果、今の私たちの生活があることに気付かせる。

【活動2】体験活動

- ☆2グループに分かれて昔の道具を使った体験活動を行い、児童の興味関心を高めたり課題をつかませたりする。

【G①】石臼の解説を聞きながら、黄粉づくり体験を行う。

- ・石臼がどんな場面で使われる道具か確認する。
 - ⇒粉を挽くための道具（小麦：小麦粉等）
 - ・使用上の注意をした後、黄粉づくりを行う。
- ※体験終了後、石臼の解説（構造等）と共に黄粉の香りの良さや手触りを体感させ、石臼が今でも使われる理由を考えさせる。

【G②】生活に欠かせない水の確保について解説を聞いたあと、体験活動を行う。

- ・水道がないころの水の確保の仕方について話を聞く。
 - ・水桶と天秤棒を使った重さ体験
 - ・水桶と天秤棒による仕事量の話を聞く。
- ※水汲みは当時の子供たちの家事手伝いの一つ。家族の一員として子供たちも協力する必要があることに気付かせる。

途中で交代(活動時間:各15分程度=約30分)



【活動3】まどめの話

- ①昔の道具は使うと大変なものもあるが当時はそれが一番良い道具であった。
 - ②昔の道具には、姿を変えずに使われ続ける道具や失われてしまった道具がある。
 - ③人々は、生活をよりよいものとするために、いろいろな道具の改良を行った。
- 例) お釜・かまど→電気釜の“かまど炊き”など
- 道具の変化は生活の変化をもたらす、今の私たちの生活につながってきている。

実施時期：1月～2月中旬
※ 活用資料や解説内容は各校の実態・希望に合わせ変更。

ステップ5 博物館資料の貸出し

博物館では、学校を中心に授業で利用できる館蔵資料の貸出しを行っています。授業の中でどのように活用するかは先生方のアイデア次第。展示資料、体験資料、提示資料など、どの場面でどう活用するか授業の展開案に沿って自由にご利用いただけます。ステップ4のように必要に応じて博物館スタッフの派遣を要望することも可能です。

【資料2】教科に関連する博物館資料（一部抜粋です。詳細は館HPをご覧ください。）

【小学校 理科①】

学年	単元名		教科書出版社
3年	2. チョウをそだてよう ○いろいろなこん虫のかんさつ		啓林館
主な活用法		昆虫の体のつくりを観察する際の資料として	
関 連 資 料			
1. 栃木県のカブトムシとクワガタムシ	2. 栃木県のチョウ	3. 栃木県のチョウ シロチョウ科	4. 栃木県のチョウ アゲハチョウ科
			
5. 鬼怒川の昆虫	6. 昆虫の宝庫 奥日光	7. 池のまわりの 昆虫	8. 身近にみられる 昆虫
			
9. 近くの雑木林に 行ってみよう	10. 飛べない昆虫	11. ゾウカブトの仲間	12. ヘラクレス オオカブトの仲間
			
13. チョウ（アクリル封入標本）	14. 昆虫模型（バッタ、トンボ、モンシロチョウ）		
			
15. 大型模型（カブトムシ、スズメバチ、クモ）			
			

【小学校 理科②】

学年	単元名		教科書出版社
4 年	6. ヒトの体のつくりと運動		啓林館
主な活用法		実物資料を使って動物のからだのつくりを観察する。	
関 連 資 料			
ツキノワグマ 幼獣剥製		ニホンザル 剥製	5517 キツネ剥製
5516 カモシカ 幼獣剥製		5032 ウサギ 剥製	5031 ウサギ全身骨格
5511 ツキノワグマ頭骨	5514 ニホンザル頭骨	5513 キツネ頭骨	5512 カモシカ頭骨

【小学校 理科③】

学年	単元名			教科書出版社
6 年	7. 大地のつくりと変化			啓林館
主な活用法		化石の観察を通して大地のつくりや変化について、興味を高める。		
関 連 資 料				
アンモナイト	三葉虫標本	オウムガイ化石	オウムガイ	恐竜の卵
				
始祖鳥化石	始祖鳥模型	木の葉化石	※貸出資料リストの 7500 番台以降の資料については自然課地学担当の学芸員と交渉可能です。 県内出土の化石もあります。ご相談ください。	
				

【小学校 社会科①】

学年	単元名			教科書出版社
3・4年	5. 暮らしの中に伝わる願い　　暮らしは、どううつり変わってきたの 3. かわってきた人々の暮らし			日本文教出版 東京書籍
主な活用法		実際の道具を見たり触れたりしながら当時の生活のようすをイメージさせる。		
関 連 資 料				
4015 石臼	4504 薬研	4014 舞ギリ式 火起こし器	4523 火打石	
				
4501 たらい	4507 枡	4520 ポンプ	4516 天秤棒と水桶	
				
4503 洗濯板				
4506 棹秤	4030 藁沓	4035 胴蓑	4036 菅笠	
				
4044 蛇目傘	4045 提灯	4510 吊り ランプ	4528 蓄音機	
				
4533 釜	4534 電気炊飯器	4537 デルビル 磁石式 電話機	黒電話	
				
4028 糸車	4029 湯たんぽ	4522 豆炭行火	4009 こて	
	 (※金属製も有)			

学年	単元名		教科書出版社
6 年	1. 日本のあゆみ（縄文～平安） 1. 日本の歴史（縄文～平安）		日本文教出版 東京書籍
主な活用法		各時代を代表する資料に触れ，観察や体験活動を行う。	
関 連 資 料			
動物毛皮  (ツキノワグマ)	7068 黒曜石 	1001 矢じり 	1004 縄文土器 
1011 さわれる 縄文土器 	貫頭衣 	1017 勾玉 	1007 銅鐸 1008 舌 
1009 銅鏡 	1010 銅戈 	1018・1019 埴輪 	1022 金印 
古代女官衣装 	古代文官衣装 	2001 十二単 	2004 束帯 
2503 狩衣 	2021 水干 	2504 源氏物語絵巻 【縮小版】 	2505 紫式部日記絵詞 【縮小版】 

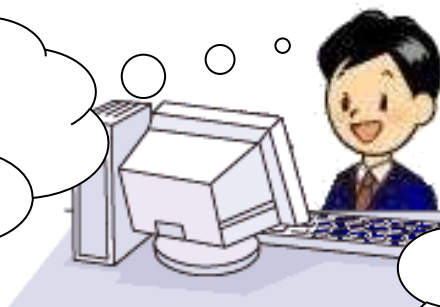
【小学校 社会科③】

学年	単元名		教科書出版社
6年	1. 日本のあゆみ（鎌倉～現代） 1. 日本の歴史（鎌倉～現代）		日本文教出版 東京書籍
主な活用法		各時代を代表する資料に触れ，観察や体験活動を行う。	
関連資料			
2010 大鎧	2012・2013 太刀		2022 箆・矢
	2014・2015 弓・鏑矢		
2011 当世具足	2018 種子島銃		
	2507 山水長巻【縮小版】		
2506 世界地図屏風【縮小版】			
2502 石盤	木銃	もんぺ	
2501 尋常小学校教科書 （復刻版）			

4 博物館利用申込みの手順

- ① 博物館をどのような場面で利用できるか、催し物案内やHP等で確認し、ご利用の内容を検討してください

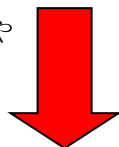
博物館に行くのは無理だけど、こんな資料を貸してくれるのか…。
□□の学習で使ってみよう。



理科の学習で見学に行こう。展示資料を見て解説を聞きたい…。

この展示資料は、社会科の○○の学習のために子どもたちに見せておきたい。体験学習も一緒にやってみるといいかも…。

ご利用内容（来館・解説，資料貸出等）や希望の日時など，希望がまとまったら…



- ② 博物館に電話をし，利用目的にあわせて申込みをしてください。

☆団体利用（来館時）の場合☆

団体観覧が可能か，予約状況等を確認します。

（観覧希望日時，人数，解説や体験活動の希望の有無等を確認します。）



☆資料貸出の場合☆

資料の貸出が可能か確認します。

（貸出希望資料，貸出期間，使用目的，職員派遣の有無等を確認します。）

電話での予約ができたら…



【お問い合わせ先】

栃木県立博物館 教育広報課

☎ 028-634-1312

FAX 028-634-1310

電話での予約ができたら…

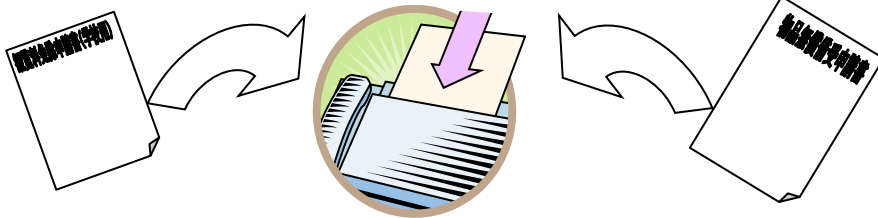


- ③ HPより『観覧料等免除申請書（学校用）』をダウンロード。

必要事項を記入して博物館へFAXで送る。

- ③ HPより『物品無償借受申請書』をダウンロード。

必要事項を記入して博物館へFAXで送る。



※ 博物館入館時，中学生以下は無料ですが，申請書の提出の提出により，引率の先生方も無料で観覧することが可能になります。

※ 後日，博物館より『物品無償貸付承認書』が届きます。資料借受で御来館の際，ご持参ください。

FAXが博物館に届いたら申込み完了です。再確認のために博物館からお電話することがあります。



- ④ 当日，博物館へご来館ください。

※ 資料の運搬は，原則，資料を借りる先生方になります。資料が運搬できる車両でお越しください。

5 利用申込みに関するQ&A

1 申し込み全般に関すること

Q：博物館を利用したいのですが。

A：「来館」・「出前授業」・「資料貸出」いずれの場合にも、まず初めに電話で予約状況の確認をしてください。

Q：いつごろ電話をすれば良いですか。

A：遅くとも利用希望日の1ヶ月前程度を目安に電話をお願いいたします。ただし、予約は全て先着順で承っております。時期によっては予約が集中しますので、できるだけ早い時期に予約をされることをおすすめいたします。なお、前年度の3月から仮予約を受付しております。（予約確定は4月以降となります）

Q：予約が集中するのはいつですか。

A：5・6月は衣装・鎧類（十二単や大鎧など）の貸出や出前授業、11月～2月は社会科「昔の道具やくらし」の単元で観覧予約・資料貸出・出前授業の予約が集中します。特にテーマ展「おじいさんやおばあさんの子どものころの暮らし」の見学は、1日に受け入れられる学校数が限られてしまいます。また、年度によって開催時期が異なりますのでHP等でご確認のうえお申し込みください。

2 出前授業・資料貸出に関すること

Q：費用はかかりますか。

A：基本的には無料ですが、授業内容によっては材料費をいただく場合がございます。

Q：資料貸出や出前授業を希望するにあたり、何か条件はありますか。

A：・資料貸出の場合

貸出期間は最大2週間ですが、予約状況等によりご希望に添えない場合がございます。

申し訳ございませんが、資料の運搬は先生方をお願いしております。資料が積載できる大きさの自動車でお越しください。

衣装・鎧類（十二単や大鎧など）は、貸出当日（または前日）に1時間程度の講習を受けていただきます（着付け方法や箱へのしまい方等）。ただし、教員向け講座「体験しま SHOW 博物館！衣装編」を受講された方の講習は免除となり、今後は優先的に貸出しが受けられる等の特典があります。

・出前授業の場合

「理科地学分野」または「昔の道具」の出前授業をご希望の場合は、教員向け講座「体験しま SHOW 博物館！理科地学分野編または昔の道具編」の受講が必修となります。特に、昔の道具等、資料数が多い場合は資料運搬のご協力をお願いする場合もございます。詳しくはお問い合わせください。

Q：学校側で準備する物がありますか。

A：出前授業では、「体験」がメインの活動になる場合がほとんどです。活動ができる広いスペース（体育館やオープンスペース等）の確保をお願いいたします。また、授業内容によってはテーブル、パソコン、プロジェクター、スクリーンまたは大型テレビ等の準備をお願いする場合もございます。詳しくは、予約電話の際に調整させていただきます。